

## 1 学校教育目標

○考える子 ○元気な子 ○がんばる子 ○助けあう子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童も教員も、けじめ・気配り・根気（3K）で生活する学校 ○児童・保護者・地域から信頼され、児童が安心して生活できる明るい学校 ○教職員が協働し、充実感と誇りをもてる学校
○児童・生徒像	○児童に目指してほしい「扇っ子」の姿 ・「おもいやり」の心を大切にする児童、「うんどう」して体を鍛える児童、「ぎもん」を大切にし、自ら学ぶ児童
○教師像	○情報を共有し、理解と協働のもと、組織的に対応できる教師 ○主体性と創造性を尊重し、専門性を発揮する教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学力向上】

日常的な授業改善、朝学習や放課後補習等の組織的な取組によって児童の学力定着・向上を図ってきたが、R5区学力調査における2教科通過率はともに目標の80%まであとわずかという状況となっている。児童が落ち着いて学習できる環境づくりを徹底するとともに、教員が自ら授業力を向上させていくことができるOJTの設定、そして組織的な学力向上の取組のさらなる充実・工夫に努めていく。

### 【自己肯定感の醸成】

学習面だけでなく、日常生活における行動面や体育的・文化的行事面で活躍した児童の称賛の場を意図的に設定していくことで、多くの児童が自分に自信をもち、自分のことが好きになっていくことができるよう、学校・家庭・地域で連携していく必要がある。

### 【教員の授業力向上】

児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日常的な授業改善に努める教員集団を目指していくとともに、効果的なOJTや研究授業の実践に取り組んでいかなければならない。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心とたくましい体の育成		○	○	○	
3	教師の授業力向上	○	○	○	○	

## 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学力の定着 学びに向かう力の育成		区学力調査目標値通過率 80%以上		82.7% (国 82.2% 算 83.3%)		通過率は目標達成したが、正答率には課題が残る。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝学習 パワーアップ タイム	全学年 国・算 読書	火 木 金 始業前 15 分間	【指導体制】担任 【ねらい】復習・確認 【使用教材】 AI ドリル・プリント	1 カ月 1 回 ミニテスト	ミニテスト 正答率 70%以上 の児童 80%以上	正答率 ・国語 83.6% ・算数 80.7%	目標は達成したが、 まだまだ伸びしろを 残している。	○
継続	補習教室	全学年 国・算	放課後	【指導体制】 担任、専科、管理職 【ねらい】 指導中内容の定着 【使用教材】AI ドリル等	定着度確認 テスト 12 月・2 月	目標値通過率 85%以上	2 月実施 ・国…70.9% ・算…69.6% 2 教科で 70.3%	学年末に復習を徹底 し、定着させる。	△
継続	家庭学習 習慣の定着	全学年	毎日	【ねらい】 学年に応じた目標時間設 定(手引き発行) 保護者の理解・協力	宿題提出 状況調査 11 月	宿題提出率 90%以上	年度末月時点… 90%	目標は達成したが、 未提出児童の固定化 が課題	○
継続	サマー スクール	全学年 国・算 各学年 10 名程度	夏休み 10 日間	【指導体制】 担任、専科、管理職 【ねらい】 ・当該学年の復習 ・既習内容におけるつま ずきの解消 【使用教材】 AI ドリル、プリント等	定着度確認 テスト 9 月	目標値通過率 85%以上	通過率…68.6%	サマースクール参加 対象児童の選定及び 指導体制の再検討を 要する。	△

継続	かけ算検定	2年生～ 6年生	給食前 放課後	【指導体制】 担任、専科、管理職 【ねらい】 ・2年生…九九の定着 ・3年以上…計算力向上 【使用教材】 プリント	かけ算検定日 12月以降	2年生以上 全員合格	96.8%の児童が合 格	年度末の給食準備時 間を活用して100% 達成	○
継続	MIM指導	1年生	通年	【指導体制】1年担任 【ねらい】 ・語彙の獲得 ・なめらかな音読 【使用教材】 プリント、デジタルMIM	MIM実施 毎月末	1月時点の 1STステージ 85%以上	3月時点で90%達成	ICTの活用や、すばや く単語間に区切りを 入れる練習などを継 続し、さらなる定着 を図っていく。	◎
継続	音読指導	全学年	通年	【指導体制】担任 【ねらい】読解力向上 【使用教材】教科書	音読聞き取り	単元テスト 正答率80%以上	3月時点で82.6%	全体では80%を達成 したものの、3年生 67%、4年生64%と 課題が残る。	○
継続	読み聞かせ 読書	全学年	通年	【指導体制】担任、図書 館支援員、図書ボラ 【ねらい】 語彙、知的好奇心涵養 【使用教材】記録カード	読書記録 (題名・ペー ジ数)	・1～3年 80冊/年 ・4～6年 6000頁/年	・1～3年 62% ・4～6年 64.3%	読書旬間・月間の取 組の工夫を要する。	△

重点的な取組事項－2		豊かな心とたくましい体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感と自他を思いやる意識の向上 体力の向上		自己肯定感調査「自分にはよいところがある」で85%以上 体力調査 区平均以上の項目 70%	「よいところがある」81.8% 体力調査区平均以上 51%	体育授業と体育的活動のさらなる改善を要する。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	「自分が好き」 自己評価 80%以上 「自分にはよいところがある」 自己評価 85%以上	・教育活動全体を通じた意図的な称賛の機会の設定 ・クラブ活動、委員会の充実 ・課外活動への参加（区小学校スポーツ大会、あだち環境かるた大会、百人一首大会等）	「自分が好き」…79% 達成基準までほんのわずか。  「よいところがある」…81.8% 高学年になるにつれ、低くなってくる。	区のコンクールやジュニアリーダー研修会、小学校スポーツ大会への参加を促し、活躍の機会を設定していく。	△
人権教育の充実	学校生活アンケート 肯定的評価 85%以上	・ふれあい月間の取組年3回 ・「特別の教科道徳」授業の充実（他者理解、思いやり、生命尊重）	他者理解や思いやりについては育ちつつある。  「学校が楽しい」と回答した児童は 87.6%で達成基準を上回った。	大きないじめ問題はなかったが、いじめ防止委員会を中心に未然防止及び早期発見・早期解決に取り組んでいく。	○
基本的な生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率 85%以上 あいさつ名人 90%以上	・養護教諭、栄養士による食育指導 ・「生活がんばりカード」年3回 ・「あいさつ週間」年6回以上	給食残滓率が減少傾向で良好。  「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率…65.3%  朝の登校時間に間に合わない児童が特定しつつある。	基本的な生活習慣の定着については、家庭の協力を要する。	△
様々な体験活動の実施	地域と連携した体験活動 年3回 外部講師による出前授業 年3回以上	・地域の田畑をお借りした農業体験、花の寄せ植え体験等 ・ドローンを活用したプログラミング学習等	開かれた学校づくり協議会の協力のもと、さつまいもやじゃがいもなどの農体験活動、花の寄せ植え体験を実施した。	花の寄せ植え体験参加児童をさらに増やしていく。	○

特別活動の工夫	「学校は楽しい」 自己評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級での当番・係活動の充実</li> <li>・豊かな話し合いのもと児童が主体的に進めていく学級会の工夫</li> <li>・兄弟班活動 年3回</li> <li>・QU 調査結果の分析と活用</li> </ul>	<p>「学校は楽しい」…87.6% 達成基準まであとわずか。</p> <p>きょうだい班活動 3回実施。</p>	<p>QU 結果の分析と活用については、夏休み前に校内研修を実施し、各担任が学級経営に生かせるようにしている。</p>	△
体力向上	「運動が好き」 自己評価 85%以上 体力調査 区平均以上の項目 70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査の結果をもとにした授業改善</li> <li>・体育的行事の充実(持久走、なわとび)</li> <li>・外遊びの奨励</li> </ul>	<p>「運動がすき」…95%</p> <p>体力調査区平均以上…51%</p> <p>体育的各行事はすべて実施。 外遊びは決まった児童に偏りつつある。</p>	<p>運動好きな児童が多いわりに、体力は低い。 児童の意欲に応えた授業づくりを要する。</p>	△

重点的な取組事項－3		教師の授業力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童が「分かった」「できた」と実感できる授業の実践		「勉強したことが分かる」の回答 95%以上	「勉強したことが分かる」89.1% 区の平均を上回った。	左記の回答結果のわり には、正答率が低い。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
日常的な授業改善	管理職による授業観察 年3回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察後の指導助言 (通年)</li> <li>自己申告面接(年3回)</li> </ul>	足立スタンダードや授業規律等の 授業全体の進め方について、日常 的に指導した。	今後は教科や単元など ポイントをしばった指 導を要する。	○
OJTの充実	計画的なOJT年10回 自主的实施年5回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>主幹教諭、主任教諭を講師 とした多岐に渡る内容につ いての研修の実施</li> <li>管理職も講師を務め、専門 性向上を図った研修の実施</li> </ul>	校長が体育主任と協働しながら、 器械運動の実技研を実施した。 副校長も自主的にOJTの機会を設 定し、算数の授業づくりやQUの活 用等について若手教員を対象に指 導した。	職層関係なく、日頃か らOJTの機会を設定で きるような時程の工夫 や会議の精選が必要。	○
小中連携の取組	年3回の研究授業 年2回の全体研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体的に学びに向か う授業づくり</li> <li>小中教員の専門性を生かし た授業研究</li> <li>9年間の系統性を鑑みた指 導計画</li> </ul>	「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けて小中連携研究授業を 3回実施した。 小中連携とは別で、算数科で2本 の校内研を実施した。	校内研については、単 発感が否めなかった。 主題を明確にし、仮説 を立て、継続的・系統 的な内容にしていく必 要がある。	○
教科指導専門員との 連携	管理職と教科指導専門 員との情報共有(月1回 以上) 組織的な若手育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導専門員から若手教 員への事前事後指導</li> <li>管理職、主幹、主任教諭 による日常的な指導助言</li> </ul>	若手教員に関する情報交換を行 い、現状と育成方向について確認 し、双方による指導に取り組んだ。 生活指導面についても遠慮なく質 問に答えていただいた。	熱意ある若手教員の学 習指導力のみならず、 生活指導力等におい ても協力を仰いでいく。	◎



## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ☆学力向上アクションプランについて

【課題】・目標値通過率は80%を上回り、掲げた目標を達成したものの、正答率を見てみると特に国語では昨年度の75.6%から今年度72.6%と、3%下回る結果となった。算数は昨年度の74.8%から今年度は75.9%とわずかの上昇は見せたものの、高い正答率とは言えない。

【対策】・個々の教員が国語科を中心とした読解力の向上を図った授業改善を進めていく。段落ごとの読み取り、サイドラインを活用した児童の思考について、児童同士で共有し対話する場面を設定していく。算数科では、文章問題で立式に至った根拠についてや、混合計算で式の順番を変えたり括弧を活用したりした理由等について児童同士で話し合いながら、数学的思考力を向上させていく場面を意図的に設定していく。

・組織的な学力向上の取組①…低学年のMIM指導の段階で、児童が単語やセンテンスについて着実な定着を果たし、語彙を増やしていく。

・組織的な学力向上の取組②…週3回(1回15分間)の朝学習では漢字や言語事項のみならず、初見の短文読解も取り入れていく。算数では計算の基礎的知識を定着させるためのプリント学習、週に1回は必ずAIドリルに取り組みさせる。

・組織的な学力向上の取組③…補習学習では、4～8月は前学年の既習事項再確認・再習得、9～12月は現在進行中の学習内容の定着、1～3月は当該学年の学習内容の復習として、必要な児童を対象に放課後個別指導を行っていく。サマースクール(7月下旬～8月上旬)では管理職を含めて全教員が指導にあたり、教員1人が児童1～3人を指導するような指導形態にする。

#### ☆自己肯定感の醸成について

【課題】・「自分にはよいところがある」と回答した児童が81.8%で、目標とした80%を達成した一方、未だに「どうせ自分は…」とあきらめてしまう児童もいる。

【対策】・教育活動全体を通じた道徳的指導、人権教育の推進に取り組み、児童一人一人が安心・安全な学校生活を送ることができるようにする。

・学習面だけでなく、日常生活における行動面や体育的・文化的行事面で活躍した児童の称賛の場を意図的に設定していく。

・教員間、保護者と連携し、児童一人一人の頑張っている姿や得意とする分野について共有し、多方面から称賛の声をかけていく。

#### ☆授業力向上について

【課題】・「勉強したことが分かる」と回答した児童が89.1%で、区の平均を上回ったものの、これを学力として定着させていくことが課題である。

【対策】・児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日常的な授業改善に努める教員集団を目指していくとともに、教員の授業力向上に効果的なOJTや研究授業の実践に取り組んでいく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

令和6年度は、運動会や音楽会、授業参観等、各行事が予定通り実施できました。運動会は赤組と白組が得点を競ったり、応援団を復活させたりと、かつての内容に戻しながらも、競技内容を工夫したプログラムとさせていただきます。保護者・地域の皆様からの温かいご理解とご協力をいただきながら、児童が安全に楽しく取り組むことができました。

生活指導面では、「早寝・早起き・朝ごはん」や登校時間帯に合わせた送り出しなど、今後とも引き続きよろしく願いいたします。

### (3) その他(学校教育活動全般について)

・月に1回～2回、児童集会を設定し、「自分のよいところ」や「友達のよいところ」を称賛し合える機会としていく。

・今後も引き続き、高学年以外でも、可能な範囲で各教員の得意分野を生かした教科担任制を導入し、授業改善の活性化を図り、児童の学力向上・体力向上につなげていく。